



目次

大阪薬科大学附属薬局の開設	広報委員会	1
理事長就任のごあいさつ	理事長 西村 壯一	3
学長就任にあたって	学長 矢内原 千鶴子	4
大阪薬科大学の発展を祈念して	前理事長 大村 栄之助	5
大阪薬科大学を去るにあたって	前学長 岡 源 郎	6
平成11年度市民講座を終えて	市民講座委員長 玄 番 宗 一	7
平成11年度公開教育講座	公開教育講座委員長 千熊 正 彦	8
進学説明会とオープンキャンパス	広報委員長 森 逸 男	10
第34回大薬祭を振り返って	学生部長 稲 森 善 彦	11
平成11年度就職状況中間報告	就職部長 沼 田 敦	12
平成10年度学校法人決算について	事務局長 河 野 光 次	13
法人人事		14
後期行事予定		15
総務課だより		16
図書館だより		17
学生課だより		18
薬用植物の紹介	薬用植物園長 草 野 源次郎	20

大阪薬科大学附属薬局の開設

広報委員会

平成4年の医療法改正，平成8年の薬事法・薬剤師法の改正，平成9年の介護保険法の制定など，薬剤師を巡る環境は大きな変化をみせ，地域医療における薬剤師の役割はこれまでとは比較にならないほど重要になってきております。本学ではこれまで全国に先駆け，昭和61年度より，約3ヶ月間の長期病院実務実習を実施するなど，現場重視の薬剤師の養成に努めて参りましたが，臨場感あふれる薬剤師教育をより強く進めるとともに，医薬分業の進展にも対応するため，大学独自の附属薬局を開局する運びとなりました。まず，平成10年11月発足の大阪薬科大学附属薬局設置準備委員会（委員長掛見教授）で施設や設備などに関する検討を進め，平成11年3月にその最終答申案が提出されました。次いで，同案を基にして，鋭意作業を進ませ，この度，大阪医科大学の隣に，学校法人大阪薬科大学附属薬局の開局を予定通りの平成11年11月1日に無事迎えることができました。

本附属薬局の目指すところとして，患者のみなさんへの高度できめ細かい調剤と関連サービスの提供，薬学生への臨場感あふれる医療薬学実習機会の提供，最先端の調剤システムの導入による地域開局薬剤師への研修機会の提供，地域基幹薬局として…医薬品の備蓄センターの実現と地域医薬品情報ネットワークの形成，将来型調剤システムや在宅医療システムの研究開発，などがあげられています。

なお，本附属薬局の施設・機器の概要は次の通りです。

設置場所：〒569-0802 高槻市北園町11-14

電話 0726-85-5083 (代)

FAX 0726-85-0361

施設は地上3階建て，1階部分は店舗，2階部分は主に調剤室など，また3階部分は研修室，事務室などで延床面積851㎡です。

1階 (202㎡)：待合室，受付，服薬指導室，処方せん受付機2台，処方入力端末4台，処方せん搬送リフト，服薬指導端末，投薬表示AVシステム，など

2階 (323㎡)：調剤室，クリーンルーム，TDM（薬物治療管理）室，薬品庫，薬歴管理室，DI（医薬情報）室，倉庫，処方管理端末及びプリンター2式，薬袋発行機及びソーター，散剤監査システム，水剤監査システム，錠剤包装機，全自動分包機，集塵機付散薬台，クリーンベンチ，エアシャワー，蒸気滅菌器，など

3階 (326㎡)：研修室（約60人収容），薬局長室，事務室，会議室，スタッフルーム，ロッカールーム，など

附属薬局の開局披露について

平成11年11月1日（月）、本学附属薬局が開局した。それに先立ち、10月29日（金）、高槻市北園町の附属薬局において50余名の来賓を迎え開局披露が行われた。

まず始めに、午前11時から約40分間に亘って薬局内の見学会があり、来賓の方々は、河原林進一郎薬局長、角井義昌副薬局長の案内で新装の1階待合、受付、服薬指導室、2階調剤室、クリーンルーム、TDM室等を見学された。続いて、午前11時45分から3階研修室において披露パーティーが開会された。

披露パーティーは、まず西村壯一理事長が、薬剤師をとりまく法整備を始めとした環境の変化に対応すべく、その一環として附属薬局の開局にふみきった旨の設立の趣旨説明をした後、「今後附属薬局が、医療薬学教育の場となるよう、また、地域基幹薬局としての役割を担うことを期待したい」と挨拶。

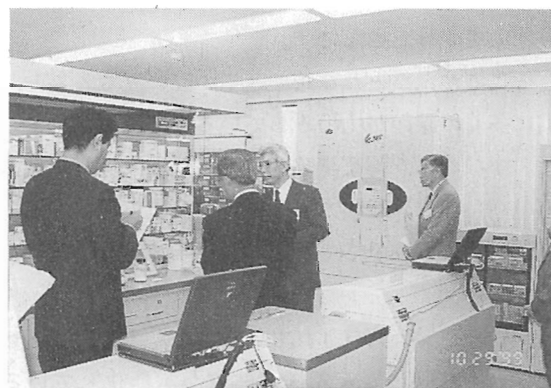
続いて、栗原拓史学長事務取扱から「今後の活用法として平成13年度から実施予定の1ヶ月の実務実習も含めて附属薬局をどのように活用していくべきかを学内で検討している」との説明があった。

次に来賓の代表として、岡本彰大阪府薬剤師会会長より「附属薬局に対して開局目的の実現を目指してほしい。また、地域医療のセンターとして育ててほしい」と祝辞を頂いた。

また、奥本務高槻市長からの「附属薬局の開局が、将来我が国の高齢化・福祉社会の一助となり、大阪薬科大学学生の薬学実習教育の充実及び院外処方の積極的推進という観点からも喜ぶべきことであると同時に大いに期待される」という内容のメッセージが披露され、次いで、各界から頂いた祝電の披露が行われた。

次に、来賓の倉本進高槻市薬剤師会会長のご発声で乾杯が行われ、祝宴に移った。ひとしきりの歓談の後、最後に本学附属薬局河原林進一郎薬局長より本日のお礼と関係各位への謝辞があり、「薬科大学

として他に先がけての附属薬局の開設は本学が将来に向かって更に前進をするための取り組みであり、その実現のためスタッフ一同一丸となって努力する。また、その責を果たすため、①真の患者サービスの追求②地域と大学の共生による新しい薬局像の追求③現場から教育のあり方の追求の3点を念頭におき、患者、地域住民の信頼を得よう日々の業務に取り組ませて頂く」旨の挨拶があり、午後1時盛会のうちに閉会となった。（総務課）



理事長就任のごあいさつ



理事長 西村 壯一

去る6月末の理事会で、はからずも理事長に選任されました。2期6年、学外理事として移転問題をはじめ大学運営の枢機に参画してまいりましたが、いざ大学内部にはいってみると、多くの新しいことが見えてきます。

時間外にも研究室の灯がともる熱心な先生方、学生食堂で指導教授と学生が語り合いながら食事をとる微笑ましい情景、夏休み返上で補講に出てくる学生たち、公開講座・市民講座など開かれた大学の実践……新キャンパスの生き生きとした躍動に心嬉しい印象を受けたことです。

ところが、ひとたび管理運営の面に立ち入ると、実に多くの課題が山積みしているのに驚かされました。すなわち、国家試験合格率の低迷、教育組織再編の立ち遅れ、教員人事の停滞、自己点検・評価の遅延、諸規程類の整備不良、附属薬局の活用方策等々です。

課題の認識は共有されているのに、“議して決せず”のくり返りで、先送り体質が常態化しているように見受けられます。何と任期満了による学長選まで、“先送り”になったのには啞然とせざるを得ませんでした。

これでは、いま大学に、私学に吹きつけている変革の嵐を乗り切ることはできません。永い歴史に沈潜して破滅した名門企業の数々を他山の石とすべきでしょう。

さいわい、11月の出直し選挙で新学長が選ばれ、しかも有志教員が「小異を捨てて大同につこう」と

呼びかけて頂けたので、やっと愁眉を開くことができました。

もう21世紀は目の前です。建学の精神と私学の本旨に立ち返り、大阪薬科大学のリニューアルをはかる時です。

私は、矢内原新学長とコンビを組んで、栄光の創立100周年を迎えられるよう全学のエネルギーを結集してまいりたいと決意を新たにしている次第。意余って筆足らずの憾みがありますが、皆さまのご理解、ご支援をお願いして、遅れながらの就任あいさつといたします。

《略歴》

1931年生。京大経済学部卒。

大阪府企画部長・総務部長（大学管理行政、私学指導助成も担当）を経て大阪府副知事。

退官後、大阪高速鉄道（株）社長。

傍ら国・私立数大学で社会人講師を経験。

豊中市在住。

学長就任にあたって



学長 矢内原 千鶴子

大阪薬科大学学長就任にあたりご挨拶申し上げます。

世界の人々が世紀を越えて来たるべき新千年紀を意義あるものと位置づけ、心新たに新しい歩みを踏み出そうとしている今この時に、学長のご指名をいただきましたことは栄誉の極みであります。その事の重大さに恐懼ともいえる思いをいたしております。

大阪薬科大学が今日に至る、100年に垂んとする長い歴史の中で築き上げてこられた教育・研究のゆるぎない基盤と業績は、数多くの先輩関係諸氏の淑知と情熱と努力の結晶であり大いなる誇りとすところであります。また現教職員の方々の、本学の将来へ向けての発展を期する熱意には並々ならぬものがあることに深く感銘いたしております。こうしたすぐれた条件に恵まれた大阪薬科大学が、来るべき新しい世紀の中でさらに大いなる飛躍を遂げることは信じて疑わないところではありますが、それが現実のものとなり得るか否か、その責任の多くは学長の双肩にかかっているものと改めて強く心をひきめています。

我が国における薬学教育が、薬剤師教育問題を包含しつつ大きな転換期にある現在、大阪薬科大学における教育の理念とシステムに自ら新しい展開が求められています。世界に誇り得る我が国の伝統の薬学教育に、時代の求める薬剤師像を実現できる能力とところをもった学生を現場に送り出して行くための新しい教育が付加されなければならないことについては今さら議論の余地はありません。屈指の設備を誇る新学舎での教育・研究活動が本格化しつつある今こそ、これに力強い息吹を吹き込み、ひとり大阪薬科大学のみならず、転換期にある我が国の薬学教育の改革を真に裏あるものにするためにも、率

先して問題解決に取り組んでいかなければならないと考えております。

大阪薬科大学の諸先輩の多くが、薬学教育界はいうに及ばず、その他の教育研究機関、薬業界、医療界などで広くリーダーとして活躍されていることを自身の経験の中で目のあたりにして参りました。これからの大阪薬科大学がどのような人材の育成を目標とするか、これが大学にとって最も重要な課題であると考えます。薬剤師国家試験合格という結果につながる教育が最重要の目的の一つであることには異論はないところでありましようが、その受験資格として“大学”における正規の課程を修めて卒業した者であることが求められている意義を今改めて心に強く刻んでおきたいと思えます。科学者として、技術者としての優れた薬剤師を育てることはいうまでもありませんが、人間の内なるものの成長と充実の教育がともなうところこそ大学教育の意義があると考えます。一方、先にもふれたように、全国公私の教育・研究機関における本学卒業生の活躍には目ざましいものがあります。特に薬系企業がそろって組織の再構築を行っている中で、将来の創薬研究のための人材育成には危機感すら持たざるを得ないのが現状であります。そうした時にあって、本学の伝統であり、私学であればこそ可能な、人間性豊かな薬学技術者・研究者を育てる基盤もさらに強固なものにしなければならないと考えます。

大学内外で薬学教育が重大な局面をむかえているとき、大阪薬科大学学長の責務の遂行には多くの困難がともなうことも予想されますが、本学の発展への願いと志は、学生・教職員全ての方々の一致するところであり、学長として、その目標に向かって精根を盡くして努力いたす覚悟であります。

よろしくご支援、ご協力のほどお願い申し上げます。

大阪薬科大学の発展を祈念して



前理事長 大村 栄之助

平成4年（1992）3月から7年間大阪薬科大学の理事長を勤め、この6月に退任いたしました。その間諸先生、職員、ならびに大学の関係者の皆様のご協力により無事勤めることが出来ましたことに心から感謝申し上げます。

在任中の大きな思い出は、本学の松原学舎から新しい高槻への移転を行ったことです。移転の良否の判定は時間のかかるものと思いますが、大阪薬科大学の将来の発展のためには必要であったと信じております。また本年11月1日に開局した本学附属薬局の開設は全国私立薬科大学としても初めての試みであり、画期的な薬剤師教育の場として充分活用し、学生の医療教育に新風を吹き込んで欲しいと思います。

ここ数年、日本はバブルの崩壊が大きな誘因で色々な面で行き詰まりと、経済不振に困窮しています。日本全体が全くグローバル化した世界の体制に付いていけなくなったと言うことでしょうか。薬学会、薬業界も例外でなく大きな過渡期に來ています。ここ数年、薬剤師会、厚生省などの努力により明治初期以来の薬剤師の念願であった医薬分業の実績が30%以上となり、自ずと薬剤師の需要、地位の向上が見られて來たことはご同慶の至りではありますが、大学での薬剤師教育は今の儘でいいのでしょうか。他方企業での創薬研究の新人を養成する方向として現在の薬大の教育が対応しているか否かには大きな問題があります。何か薬学教育は過去二兎を追って今日まで來ましたが、その矛盾と行き詰まりを露呈した

感がいたします。薬学教育は薬剤師の教育に専念するか、それならば現在の教育研究体制は相当に変えねばなりません。一方薬業界は世界に通用する新製品を創製することに努力しています。それに対応するためには創薬、環境などの為の基礎研究などの方向を改編しなければ現在の薬学の研究教育体制では不十分だと思ひます。昨年来、本学で検討してきた新事業計画委員会の報告などを検討する必要があると思ひます。薬剤師教育一本の体制を作るか、創薬などの基礎研究を重要視するか、また両者の教育を分離して学生の教育をするか何れかに方向を早く決めて実行に移す必要があります。教育の世界といえ競争の時代であることを文部省も充分認識しており、従来の規制型から脱皮し積極的に改革を試みております。最近の東京の五つの代表的国立単科大学が協力合併することを発表したことなどは大きな転換です。本学として一日も早く進む方向を決定し、教学部門と経営サイドが一致協力して体制作りを邁進して頂きたいと思ひます。私立大学は今後益々経営の基盤を安定化することが重要です。行政手腕豊かな新理事長を迎え、また近々は気鋭な新学長を迎えることと存じます。其々積極的に新しい大学の建設に邁進していただけるものと期待しております。

最後になりましたが私の在任中皆さんから寄せられた数々のご厚誼に心から御礼申し上げますと共に本学の益々のご発展を祈ります。

大阪薬科大学を去るにあたって

— 母校に学ぶ —



前学長 岡 源 郎

私は、二度にわたって母校大阪薬科大学に学びました。一度目は、昭和25年から昭和29年までの4年間で、大阪薬大の学生として薬学を学びました。当時、阪大薬学部から非常勤で来られていた羽野 壽教授の薬理学の講義に魅せられ、卒業後も薬学部、医学部で引続き薬理学の研究・教育の道を歩みました。羽野 壽教授は、いわば私の初恋の先生でした。二度目は、平成7年10月初めから本年9月末までの4年間で、大阪薬大の学長として管理職を学びました。学長としての4年間は、本当にあっという間でした。そして管理職として孤独の中に生き、自からを律することを学びました。「一日の労苦は一日で足れり、明日は明日の風が吹く」と、よく飲み、よく食べ、よく寝ることを実行しました。

現在の薬学教育は、私が学生時代に学んだそれとは全く異質といって良い程様変わりしています。医療の現場で必要とされ、信頼される薬剤師の養成が必要になってきました。医療・医学を学び、「知」「技」それに「心」の教育が求められています。これからは、生命科学を基盤にして、片や創薬科学、片や臨床薬科学といったバランスの良い教育が大切です。本学にとっては、とくに臨床薬科学の分野の充実が急務です。そのため教育・研究組織の見直しに着手し、鋭意努力してまいりました。臨床薬剤学講座の新設、附属調剤薬局の設置もその一つです。しかし、本学のような歴史と伝統のある大学での新しい制度の導入には、必ずしもフォローの風ばかりが吹くとは限りません。時には逆風にあおられることもあります。教育・研究組織の見直しにあたって

は、始めは不完全であっても出来るところから始めない限り、前へは進めません。

本学は、幸い天の時を得て、松原市の高見ノ里から高槻市の阿武山台地に移転しました。近隣には大阪医大あり、阪大あり、薬業関連企業の研究所ありで、これからの先見性のある学際的な教育・研究の進展のためにも、地の利を得ていると言えましょう。これからは地域に生き、地域社会によって育てられる大学でなければなりません。

しかし、いかに立派な施設があり、すぐれた組織があり、地の利があっても、それを動かし、生かして行くのは人間です。「人は石垣、人は城」と言います。人の和が大切です。自治を旗印にかかげている大学にあっては、一番大事なことは良き人事を行うことではないでしょうか。

母校大阪薬科大学の学長を辞するに当たり、今まさに「日暮れて道遠し」を実感しています。しかし、日が暮れますと、夜空に輝くいくつかの希望の星が見えてきましよう。新しい教育・研究組織が定着し、良き人材が集まり、教育・研究成果が一つ一つ積み重ねられて行くことを願っています。

4年間、いろいろご協力頂きました教員の方々、職員の方々に厚く御礼申し上げます。

最後に一言申し添えたいと思います。「未来はためらいながら近づき、現在は矢のように飛び去り、過去は静かに立っている」。私の好きなシラーの言葉です。

(平成11年11月11日)

平成 11 年度市民講座を終えて

市民講座委員長 玄 番 宗 一

今年度最初の市民講座は、第 7 回として 6 月 19 日(土)に、梅雨にもかかわらず 300 名の参加者をえて開催されました。秋には第 8 回を 10 月 30 日(土)に開きましたが、参加者数 280 名であり、2 回の延数として 580 名に達する多数のもとに開催することができました。大テーマ『健康とくすり』に基づく演者と講演内容に、市民から応えて頂けたと思っています。市民講座は、大阪薬科大学が地域に開かれた大学として、市民との接点を得る貴重な機会でしょう。

第 7 回において、最初に大阪医科大学教授宮崎瑞夫氏に「高血圧症とくすり」と題して、高血圧症の成り立ちや高血圧症と治療薬およびその合併症について、分かりやすく解説して頂きました。高血圧症の合併症の一つとして、腎臓が悪くなります。その関連もあって、次に白鷺病院院長 金 昌雄氏から「慢性腎不全の治療ー人工透析と腎臓移植ー」の話題を提供して頂きました。さらに、移植医療に対する関心が高まっていますので、腎臓移植を例に、日本臓器移植ネットワークやドナーカードのことも、説明されました。

第 8 回には、講演 1 として『健やかに生きるための食と薬』について、富山医科薬科大学名誉教授難波恒雄氏が東洋における「薬食同源」の思想を解説されました。具体的には中国医学における「未病」の思想を踏まえた「薬膳」を紹介されました。講演

2 では、大阪薬科大学招へい教授海老原昭夫氏が、くすりの体の中での動き、副作用や飲み合わせを中心に「くすりの上手な使い方」を話されました。

12 時半から始まった薬剤師方々のご協力による『くすりの相談室』は、市民からの相談で盛況でした。薬用植物園の見学や薬草の展示も市民にとっては、大きな関心事です。いかにりっぱな企画をしたところで、市民への広報に手ばかりがあってはなりません。今回の参加者数の多さは、入試・広報課の努力の賜物と言えましょう。

参加者のアンケート集計結果から、市民が今後企画を希望するテーマとして、トップに「癩保」、「生活習慣病」と「漢方・薬草」が並び、僅差で、「くすり」と「コレステロール」が続きます。その後に「アレルギー」、「骨の病気」そして「環境問題」の順です。他のテーマの希望は、これらと掛け離れて少数になります。

最後になりましたが、共催していただきました高槻市、日本薬学会近畿支部、大阪府薬剤師会、大阪府病院薬剤師会、高槻市薬剤師会および大阪薬科大学同窓会、ならびに後援いただきました大阪府および高槻市教育委員会に厚くお礼を申し上げます。今後、市民のご要望に応じて一層内容を充実させ、市民講座が地域に根付くことを祈念します。



第 7 回市民講座で熱心に聴き入る市民。満席に近い市民の後方でスライド映写などの世話を、第 1・2 薬化学教室に願った。



第 8 回市民講座で講演くださる難波恒雄先生と聴き入る市民。左端でスライドや音響のコントロールなどの世話を、第 1・2 薬品製造学教室に願った。

平成 11 年度公開教育講座

公開教育講座委員長 千 熊 正 彦

公開教育講座の企画、運営を行う公開教育講座委員会は、前年度までの委員会が次々と新機軸を打ち出され、既にある程度の方向を決めておられますので、本年度は、原則的には前委員会の方針を踏襲することで具体案を考えました。参加費に関しては、昨今の経済状況と若い薬剤師の方々にも気楽に参加いただけるようにとの配慮から、値下げを行いました。

本年度の委員会の方針をまとめますと、以下のようになります。

1. 『高度医療社会での薬剤師の役割』というメインテーマを継続し、サブテーマを設定する。
2. 年 4 回（5 月、7 月、10 月、2 月の第 3 土曜日）の開催
3. 講演記録の冊子を発行する。
4. 参加費の値下げを行う。
一般参加者：通年参加費 8,000 円、
1 回参加費 3,000 円
本学卒業生：通年参加費 5,000 円、
1 回参加費 2,000 円

そのほか、開催場所を大阪市内に変更する案、開催曜日を日曜、祭日にする案なども検討しましたが、結論に至らず継続審議としました。

本公開教育講座の目的やどのような参加者を対象にするかに関しては、いろんな考え方がありますが、現時点では社会の要請を考慮しつつ大学並びに関連分野の知的財産を公開することを目的とし、対象としては主として薬剤師を想定して企画を行いました。テーマは、前回までの出席者のアンケートを参考にして決定いたしました。本年度は「病態とその治療」を中心とし、服薬指導に際して、経験の浅い薬剤師が困惑するような問題点を含む病態を

テーマにとりあげるよう心がけました。そのためか、会場には少数ではありますが、患者さんおよびその家族の方がお見えになり、熱心に聴いておられたのが印象的で、講演終了後に家族の方から具体的な質問を受けた講師の先生もありました。本年度のテーマ、開催日時、講師、演題は次の通りです。

第 20 回～第 22 回の延べ有料参加者数は 290 名ですから、1 日 2 講演でおよそ 100 名の参加者があると考えられます。参加者の統計は次表の通りです。参加者の皆様には本公開教育講座に関するアンケートを毎回行っておりますが、貴重なご意見、ご要望が多く寄せられており、参加者の皆さんの熱意が感じられます。第 20 回～第 22 回におけるアンケートの回収率はいずれも約 70% であり、これによりますと、参加者に占める本学卒業生の割合は、50% 強であります。学報 38 号に前委員長掛見教授も述べておられますように、もう少し多くの本学卒業生の皆様が参加して下さると本講座ももっと活気ができるものと思います。そのような背景もあり、本年度からは本学同窓会に正式に後援していただくことになりました。さらに、同窓会から本公開教育講座に対して寄付のお申し出があり、5 月 14 日に同窓会長の栗田稔様、同副会長高橋市子様よりご芳志を頂戴いたしました。本委員会としては、このご厚意を基本的には公開教育講座の充実のために使わせていただきますが、本学卒業生に対する広報をさらに充実させるなど、本学同窓生の皆様が参加しやすいようにするための配慮をいたしたいと考えています。

また、日本薬学会近畿支部は、大学の行う一般公開講演会に関して、各大学から依頼があれば、共催し、会員雑誌『ファルマシア』に広告記事を掲載し、さらにその講演会が市民対象の場合には補助金をだ

すという方針を打ち出しています。例えば、本学市民講座の場合、第7回（1999年）から共催し、補助金の給付を受けています。公開教育講座についても、第22回から薬学会近畿支部と共催することにいたしました。

最後になりましたが、お忙しいなか講演を快く引き受けて下さいました講師の先生方に対して心から

感謝いたします。また、当日、座長の任を果たされた本学教員、会場の世話をして下さいました研究室の皆様にも深く感謝いたします。共催していただいた（財）日本薬剤師研修センター、（社）日本薬学会近畿支部に御礼申し上げます。さらに、後援していただいた（社）大阪府薬剤師会、大阪薬科大学同窓会に心から謝意を表します。

第20回 公開教育講座

高度医療社会での薬剤師の役割(7)
 開催日時：1999年5月22日(土) 13時30分～17時30分
 開催場所：本学講堂
 テーマ：糖尿病とその治療の最前線
 演題1：「生活習慣病と食生活—糖尿病の食事療法を中心に—」
 前兵庫医科大学病院栄養部長 田辺節子
 演題2：「糖尿病の病態と治療をめぐる最近の進歩」
 京都大学大学院医学研究科教授
 内科（病態代謝栄養学）清野 裕

第21回 公開教育講座

高度医療社会での薬剤師の役割(8)
 開催日時：1999年7月17日(土) 13時30分～17時30分
 開催場所：本学講堂
 テーマ：ターミナルケアの最前線
 演題1：「ホスピスの現場から見た終末期医療」
 淀川キリスト病院 ホスピス 副院長 池永昌之
 演題2：「おうじょうしまっせ—緩和医療」
 京都桂病院 医務部薬剤科 科長補佐 中西弘和

第22回 公開教育講座

高度医療社会での薬剤師の役割(9)
 開催日時：1999年10月23日(土) 13時30分～17時30分
 開催場所：本学講堂
 テーマ：自己免疫疾患とその治療の最前線
 演題1：「リウマチ・膠原病の病態と治療戦略」
 京都大学大学院医学研究科講師
 第二内科（臨床病態医学）尾崎承一
 演題2：「バセドウ病と橋本病：薬物治療と副作用の対策」
 医療法人神甲会隈病院 内科部長 深田修司

第23回 公開教育講座

高度医療社会での薬剤師の役割(10)
 開催日時：2000年2月19日(土) 13時30分～17時30分
 開催場所：本学講堂
 テーマ：透析医療の最前線
 演題1：「透析技術の進歩」
 本学教授 臨床薬理学 田中一彦
 演題2：「透析患者の薬物投与設計」
 特定医療法人仁真会白鷺病院薬剤科長 平田純生

公開教育講座	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回	9回
開催年	1983年	1984年	1985年	1986年	1987年	1988年	1989年	1990年	1991年
開催日数（日）	6	5	4	4	4	4	4	4	3
有料参加者数	280	120	86	85	57	59	36	44	34

公開教育講座	10回	11回	12回	13回	14回	15回	16～19回	20～22回
開催年	1992年	1993年	1994年	1995年	1996年	1997年	1998年	1999年
開催日数（日）	3	3	3	3	3	3	4	3
有料参加者数	81	210	323	292	192	177	491	290

進学説明会とオープンキャンパス

広報委員長 森 逸 男

進学説明会

高等学校および予備校の進学指導の先生方を対象とした進学説明会が、大阪東急ホテルにて6月11日（金）に、開催されました。本年度は昨年度のような入試制度変更という大きな話題も無いことにより、参加校は若干減少しましたが、大阪、京都、兵庫、奈良、和歌山、三重などから約120校の参加があり、本学への関心の高さがうかがえました。例年の通り、入試概要（推薦入学試験11月14日、F方式2月1日、G方式2月9日実施、C方式1月19日出願締切）・平成11年度入試結果・納付金・履修カリキュラム・学内の状況・就職状況などについての大略説明を行い、その後各種の質問を受けました。質問の多くは、入試・就職・国家試験に関するもので、受験を考える生徒以上に厳しい内容の質問が見受けられました。

同じように6月15日（火）に、広島地区（広島ガーデンパレス）においても昨年に続き進学説明会を実施しました。平成12年度入試から広島地区でも試験会場を設定するためか、昨年に比べ、教員の参加者は倍増し、受験生・保護者などを対象とした説明会は、会場が満席となるほどでした。参加者から、薬剤師国家試験の合格率の低迷などについてかなり厳しいご意見も頂戴しました。なお、F方式だけでなくG方式についても広島地区に試験会場を設定希望するなどの意見もありました。

オープンキャンパス

平成8年度より実施しておりますオープンキャンパスを、今年も8月4日（水）および30日（月）の

両日に開催させて頂きました。内容は一般入試、推薦入試の内容だけでなく、薬学のプロフィールや入学後の授業の概略、卒業後の進路も含め幅広い説明を行うとともに、平成11年度の入試問題集（推薦、一般F方式、G方式それぞれの解答・解説付）を配付しました。本問題集の配付は、一般の出版社から情報提供されていない推薦入試、昨年度から実施のF方式（平成11年度入試から新規導入したF方式の問題は、各出版社などにも情報提供を行っているにもかかわらず未掲載）の概要を知るうえに、参加者に好評のようでした。入試や就職状況の説明の後、薬学の面白さ、実験の楽しさを実際に見聞し理解してもらうため、模擬実験＜内容：1. 卵から“リゾチーム”をとろう 2. コンピュータで“くすりの立体構造”を見よう 3. 電子顕微鏡で“ミクロ”の世界を覗く＞の見学と体験をかねた学内見学を催しました。なお、見学コースに含まれていないその他の施設については各自自由に個別見学をしていただきました。これと並行して個別相談も受付、学部・大学院の授業について、薬剤師国家試験についてあるいは下宿に関する事などの問い合わせがありました。参加者は、二日間で延べ約480名にのぼり、昨年に比べ50%増となりましたが、アンケート回答者が非常に少なかった事が気がかりです。

今後も、開催時期と回数、各高校や薬学を志す生徒へのインフォメーション方法、在学生との交流の場の開設、学園祭（大薬祭）との同時実施など、オープンキャンパスの開催の是非、在り方など参加者のアンケート結果や皆様のご意見を参考に、改善に努めたいと考えております。

第34回 大薬祭を振り返って

学生部長 教授 稲 森 善 彦

第34回大薬祭は、関係各位のご協力のもとに、11月7日午後8時無事に終了した。極少数の実行委員のたゆまぬ努力と情熱が天を動かしたのか、準備の日から後片付けの日を含めて5日間、秋晴れに恵まれ、最高の大薬祭日和であったと喜んでいる。実行委員を中心とした各クラブ部員をはじめ、参加学生の情熱に大きな拍手を送りたい。テーマ「ヒコーキ雲」は恐らく参加学生は勿論のこと、我々の心に永久に残る事と確信している。秋晴れの空に浮かぶ雲もヒコーキ雲に見えた。パンフレットの挨拶文中にも書いたが、「大薬祭」の松明に火がついた！ さぁ！ 薬大生諸君よこの松明の下に集まれ！ 参加した学生諸君の心の中には永遠にこの松明の炎は残るであろう！

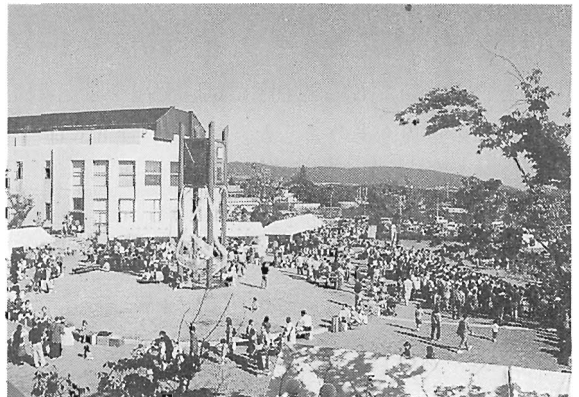
また、大薬祭にご参加下さり、ご協力賜わった教職員の皆様に衷心よりお礼申し上げます。実行委員の学生も心から喜んでいると思う。さらに、育友会ならびに同窓会の皆様のご援助があったればこそあのように盛大に大薬祭が成功したのであって、学生部長として衷心よりお礼申し上げます。近日、実行委員諸君と反省も含めて、大薬祭を振り返りたいと思っているが、今ここで、大薬祭の3日間を簡単に振り返ってみたい。

1) 例年のように、全学生に比べると参加学生の数は今年も少なかった。連日徹夜に近い準備をした実行委員の事を思うと、気の毒で胸の熱くなるのを覚えるが、彼らにとってこの経験は必ずや将来プラスとなって戻ってくるであろうと確信している。ど

うか、後輩の実行委員諸君よ！ 先輩のこの松明の情熱を来年以降も燃やし続けてほしい。

2) 今年は模擬店も開店できた。何の事故もなく終了できたのも実行委員が保健所や私共の指導や意見をよく聞いてくれた結果と感謝している。取り越し苦労と思われたかも知れないが、事故が起きてからでは遅いので、種々注意したが、参加した学生諸君、教職員や近隣の市民の皆様が楽しく召し上がってられるのを見ると成功したと実感した。私もゲームを楽しんだ。しかし、年の為か、それとも生来の運動神経の悪さかどうも上手くいかなかったが、お陰で楽しい一時を過ごせた。近隣の子供さんもゲームを楽しんでくれたようだ。迷惑駐車や通学バスでのマナーなど苦情が出ている近隣の人々に少しは薬大の良さも解って頂けたのではないかと淡い思いを巡らしている次第である。

3) 急性アルコール中毒の防止に関しては、最後まで実行委員に色々注文をつけたがこれも参加学生の自覚と知性と品性で、事故なく終了できた。これは実行委員の諸君が私共の真意をよく理解してくれて、協力してくれたお陰と心から感謝している次第である。100点満点に近い大薬祭であったと思う。笑福亭鶴瓶のトークショーも大盛況のうちに終わり、園児たちの発表会も大変良かったし、“いしのだなつよ”の野外ステージも大変好評ですべてが良い思い出であったことを述べて私の「大薬祭を振り返って」としたい。



平成 11 年度 就職状況中間報告

就職部長 沼田 敦

薬系大学卒業生の就職状況は、景気の低迷に加え、薬価切り下げ、患者の医療費負担増を含む医療保険制度改革及び医薬分業の急速な推進により、数年前から急激に変動してきております。企業は人員削減を図り、病院薬剤師の数は現状維持か削減の傾向となる一方、調剤薬局の薬剤師の需要が高まり、その結果、学生の就職状況が大きく様変わりしてきております。一方、就職協定の実質的廃止により就職試験の時期が大幅に繰り上がり（一部は3年次生の2月下旬頃）、また、求人インターネットを利用するところもでてきており、これらの変動に対応していかねばならない学生の就職活動は大変な状況にあります。

この著しい変化に対応すべく新4年次生には、昨年度の求人状況を提示しながら、数回の就職ガイダンス及び個人面談を実施し、薬学生を取り巻く就職環境の変動と就職活動の心構えを指導してきました。

本年度の就職活動は、製薬企業、一部の調剤薬局、ドラッグストア等のセミナーが始まった3月頃より活発化しました。今年の4年次生は例年より少人数【269名（男71名、女198名）】ですが、現在（10月20日）までの進路内定状況は、表に示すとおりです。全業種の内定率は昨年と比べ7%高い状況にあります（昨年45.3%、今年52.4%）、これは薬業関連企業の医薬情報担当者（MR）、病院及び薬局の内定率は昨年とほぼ同率ですが、大学院進学者の大幅な増加によりこのような内定率となっています。

今年の求人数は、薬業関連企業、病院ともに大幅に減少し、その反面、調剤薬局やドラッグストアでは激増しております。これは保険制度改革や医薬分業の促進から予測されたものの一昨年度より大幅に変化しており、学生の薬業関連企業や病院への就職希望の多い状況とは大きなギャップとなっていま

す。

夏休み明けには薬業関連企業からの求人依頼はほぼ終わり、以後、一部病院薬剤師の新卒求人を期待しておりますが、現実には既卒者又はパートでの欠員補充の傾向がみられ、新卒にとって益々難しい状況が予想されます。

今年前半の就職活動から、学生の就職意識の多様化や大手・ブランド志向がうかがわれ、これから就職活動する者がどこまで希望通りの就職ができるかどうか厳しい状況下にあると思われます。

最近では就職活動に際して、企業は勿論のこと病院、薬局などにおいても学生の目的意識、マナー、更には人間性が重視され、今後の就職指導の際にこれを強調して行きたいと思っています。今年度の3年次生には、9月27日に第一回目の就職ガイダンスを実施し、薬学生を取り巻く最近の就職環境等を紹介し、卒業後の進路を真剣に考えるよう指導しております。

この厳しい就職難の状況下におきましても、各先生方や関係各位から本学学生の就職につきまして多大のご指導、ご協力を賜っており、心から感謝しております。どうぞ、今後ともご支援の程よろしくお願い申し上げます。

平成11年度卒業予定者（47期生）進路状況

（平成11年10月20日現在）

区 分	男子	%	女子	%	合計	%
薬業関連企業（営業）	11	15.5	16	8.1	27	10.0
（内勤）	1	1.4	10	5.1	11	4.1
病 院 ・ 診 療 所	1	1.4	8	4.0	9	3.3
薬 局	5	7.0	33	16.7	38	14.1
公 務 員						
教 職 員						
大学院・研究生	28	39.4	17	8.6	45	16.7
病 院 研 修 生	1	1.4	8	4.0	9	3.3
そ の 他	1	1.4	1	0.5	2	0.7

内 定	48	67.6	93	47.0	141	52.4
未 定	23	32.4	105	53.0	128	47.6
合 計	71	100.0	198	100.0	269	100.0

平成10年度 学校法人決算について

事務局長 河野光次

去る平成11年5月25日に開催された理事会および評議員会において、学校法人大阪薬科大学の平成10

年度決算が審議のうえ承認されたので、消費収支計算書（総括表）を掲載し、その概要を説明したい。

平成10年度消費収支計算書

平成10年4月1日から
平成11年3月31日まで

消費収入の部 (単位千円)			
科目	予算	決算	差異
学生納付金	2,362,500	2,435,085	△ 72,585
手数料	88,100	122,649	△ 34,549
寄付金	5,000	23,575	△ 18,575
補助金	243,700	267,037	△ 23,337
資産運用収入	5,000	10,973	△ 5,973
資産売却差額	230,000	208,464	21,536
事業収入	2,000	3,054	△ 1,054
雑収入	65,700	66,500	△ 800
帰属収入合計	3,002,000	3,137,337	△ 135,337
基本金組入額合計	△ 255,000	0	△ 255,000
消費収入の部合計	2,747,000	3,137,337	△ 390,337

消費支出の部 (単位千円)			
科目	予算	決算	差異
人件費	1,395,900	1,307,703	88,197
教育研究経費	1,083,550	1,030,502	53,048
管理経費	162,690	124,549	38,141
借入金利息	340,600	308,677	31,923
資産処分差額	954,000	937,516	16,484
予備費	10,000	0	10,000
消費支出の部合計	3,946,740	3,708,947	237,793
当年度消費支出超過額	1,199,740	571,610	
前年度繰越消費支出超過額	2,534,000	2,461,553	
翌年度繰越消費支出超過額	3,733,740	3,033,163	

新制度の入学試験（F方式）導入により検定料収入が予算よりも約3千万円の増収となったことや、文部省研究設備補助金が約3千万円採択されたこと等により、帰属収入合計は、予算よりも約1億3千万円の増収であった。

また、人件費が予算よりも約9千万円の減であ

たこと等により、消費支出合計は、予算よりも約2億4千万円の減であった。

以上のように、収入、支出ともに大きな増減があったが、松原校舎撤去による資産処分差額が約9億4千万円発生したので、平成10年度の決算は、約5億7千万円の支出超過であった。

■ 来年度の学費について（学部）

本学では、平成5年度より学費スライド制を実施しています。

これに伴い、来年度（平成12年度）の学費について諸般の事情を考慮し慎重に検討を重ねた結果、来年度の学費改定は実施しないことになりました。

したがって、平成5年度以降入学生の来年度の学費は、つぎのとおり本年度と同額となります。

費目	金額（円）
授業料（年額）	1,200,000
施設・設備費（年額）	600,000
計	1,800,000

■ 法人人事

理事・評議員の改選による異動

理事就任（平成11年6月20日付 任期3年）

理事長 西村 壯一
理事 栗田 稔
理事 大木 令司
理事 岡 源郎
理事 梶川 益美
理事 澤木 茂
理事 沼田 敦
理事 藤田 武司
理事 森 逸男

（平成11年9月7日付 任期3年）

理事 河野 光次

（平成11年12月16日付 任期4年）

理事 矢内原 千鶴子

理事退任（平成11年6月19日付）

大村 栄之助 河野 光次

栗原 拓史

（平成11年9月30日付）

岡 源郎

評議員就任（平成11年5月11日付 任期3年）

栗田 稔 澤木 茂
池田 潔 高橋 市子
石田 寿昌 西村 壯一
大木 令司 沼田 敦
大谷 光昭 藤井 壽夫
岡 源郎 藤田 武司
岡田 健治 藤本 守
岡野 吉秀 藤原 富男
岡本 彰 眞崎 知生
織田 美夫 村田 君江
梶川 益美 目黒 寛司
熊谷 信昭 森 逸男
栗原 拓史 矢内原 千鶴子

評議員退任（平成11年5月10日付）

上尾 庄一郎 喜多川 一哉
大村 栄之助 土井 勝
小原 義行 松尾 壽之
香月 英男 水川 孝

（平成11年9月30日付）

岡 源郎

退任記念パーティー

6月18日（金）午後5時より大学会館において大村栄之助理事長の退任記念パーティーが開催された。

理事長退任記念パーティー



◆ 慶弔

★ 表彰

熊谷 信昭 評議員 文化功労者

（平成11年11月4日）



平成11年度後期行事予定

平成11年

- 9. 1(木) 前期再試験受験者発表(1~3年次生)
- 9. 1(木) } 前期再試験(4年次生・1~4年次全科目)
- 9. 17(金)
- 9. 8(木) } 前期再試験(1~3年次生)
- 9. 24(金)
- 9. 27(月) 後期授業前半開始(1~3年次生)
就職ガイダンス(3年次生)
特別再試験(4年次生)受験者発表
- 10. 1(金) 後期選択科目・選択必修科目(1~3年次生)
履修届提出締切(教務課)午後3時
- 10. 4(月) } 特別再試験(4年次生)
- 12. 20(月)
- 10. 16(土) 薬学総合演習第2回総合試験(4年次生)
- 10. 20(木) 平成12年度(第2次)大学院修士課程一般入学試験
- 10. 25(月) 平成12年度(第2次)大学院修士課程一般入学試験合格者発表
- 11. 4(木) 第34回大薬祭準備(午後臨時休講)
- 11. 5(金) } 第34回大薬祭等(臨時休講)
- 11. 8(月)
- 11. 14(日) 平成12年度一般公募制推薦入学試験(S方式)
・帰国生徒特別選抜入学試験(K方式)
- 11. 20(土) 薬学総合演習第3回総合試験(4年次生)
- 12. 1(木) 平成12年度一般公募制推薦入学試験(S方式)
・帰国生徒特別選抜入学試験(K方式)合格者発表
- 12. 11(土) 薬学総合演習第4回総合試験(4年次生)
- 12. 14(火) 実験動物慰霊祭
- 12. 22(木) 後期授業前半終了(1~3年次生)
就職ガイダンス(3年次生)
- 12. 22(木) • 薬学総合演習正規試験(4年次生)
- 12. 24(金)
- 12. 25(土) 平成11年度臨床薬学実習報告会(4年次生臨床薬学実習コース)

平成12年

- 1. 7(金) 後期授業後半開始(1~3年次生)
- 1. 14(金) 後期授業後半終了(1~3年次生)
平成12年度大学入試センター試験実施準備(午後臨時休講)
- 1. 15(土) } 平成12年度大学入試センター試験(一般入学試験C方式)
- 1. 16(日)
- 1. 17(月) } 後期定期試験(1~3年次生)
- 1. 28(金)
- 1. 25(火) } 薬学総合演習再試験(4年次生)
- 1. 26(水)
- 1. 28(金) 就職ガイダンス(3年次生)
- 2. 1(火) 平成12年度一般入学試験F方式(本学・大阪予備校・広島ガーデンパレス)
- 2. 2(水) 後期定期試験(1~3年次生)欠席届提出締切(教務課)午後1時
- 2. 7(月) 平成12年度一般入学試験C・F方式合格者発表
- 2. 9(水) 平成12年度一般入学試験G方式(本学・大阪予備校)
- 2. 10(木) 後期再試験(1~3年次生)受験者発表
- 2. 12(土) 薬学総合演習第5回総合試験(4年次生)
- 2. 14(月) } 後期再試験(1~3年次生)
- 2. 25(金)
- 2. 15(火) 卒業者発表・特別再試験および薬学総合演習再試験(4年次生)成績発表(教務課)
- 2. 16(水) 平成12年度一般入学試験G方式合格者発表
- 3. 上旬 個人面談(3年次生進路・就職)
- 3. 3(金) } 薬剤師国家試験模擬試験(4年次生希望者)
- 3. 4(土)
- 3. 11(土) 第47期学部卒業式および第24期大学院学位記授与式
- 3. 17(金) 進級者発表・進級者未修得科目発表(教務課)
- 3. 25(土) } 第85回薬剤師国家試験(厚生省)
- 3. 26(日)

総務課だより

□ 人 事 □

学長事務取扱（平成11年10月1日付）

栗原 拓史（教授）

学 長（平成11年12月16日付）

矢内原 千鶴子（任期4年）

昇 任（平成11年10月1日付）

事務局次長 伊藤 美雄（入試・広報課長）

係 長 高橋 嘉明（総務課主任）

係 長 手島 尚（経理課主任）

主 任 三角 智津（総務課）

併 任（平成11年10月1日付）

入試・広報課長 伊藤 美雄（事務局次長）

（平成11年10月1日付）

大阪薬科大学附属薬局事務担当統轄

中山 基宏（図書課長）

（平成11年11月1日付）

防火管理者 沼田 敦（理事）

採 用（平成11年7月12日付）

嘱託職員 河原林 進一郎

（大阪薬科大学附属薬局長）

（平成11年9月1日付）

嘱託職員 高橋 宏幸（附属薬局薬剤師）

（平成11年10月1日付）

嘱託職員 角井 義昌（附属薬局副薬局長）

（平成11年10月1日付）

嘱託職員 田口 真里（附属薬局薬剤師）

（平成11年10月12日付）

嘱託職員 大原 恵子（附属薬局薬剤師）

（平成11年10月18日付）

嘱託職員 片岡 絵里子（附属薬局薬剤師）

配置換（平成11年10月1日付）

川崎 香子（大阪薬科大学附属薬局事務担当・施設課より）

非常勤講師（平成11年9月1日付）

斎藤 武（数学2）

田口 侑男（数学2）

中村 恵（ドイツ語2）

福森 義信（基礎薬剤学）

榎矢 桂一（ドイツ語4）

村田 吉郎（病態生理学2）

望月伸三郎（健康科学）

山内 真理（英語2）

山田 明男（医薬品毒性学）

Joseph Michael Jacobs（英語4）

Julianne Gay Whitlam（英語4）

客員研究員（平成11年10月1日付 期間1年）

木戸 正

外国人客員研究員（平成11年10月1日付 期間1年）

王 年鶴

嘱託（平成11年12月1日付 期間1年）

板倉佐恵子（学生相談室相談員）

退 任（平成11年9月30日付）

岡 源郎（学長・任期満了）

（平成11年12月15日付）

栗原 拓史（学長事務取扱）

□ 海外出張 □

馬場きみ江 助教授，谷口 雅彦 助手

（第二生薬学教室）

＜出張期間：平成11年6月20日～6月24日＞

「二十一世紀 中薬臨床，研發技術研討會」（台北，台湾）にて発表

尹 康子 助手（第二物理化学教室）

＜出張期間：平成11年8月2日～8月14日＞

18th International Union of Crystallography Congress (Glasgow, England) にて発表

田中 一彦 教授（臨床薬剤学教室）

＜出張期間：平成11年9月11日～9月20日＞

6th International Congress of Therapeutic Drug Monitoring and Clinical Toxicology (Cairns, Queensland, Australia) にて発表

松村 靖夫 助教授，高岡 昌徳 助手

（第一薬理学教室）

＜出張期間：平成11年10月10日～10月16日＞

6th International Conference on Endothelin (Montreal, Canada) にて発表

◆ 退任記念パーティー

9月30日(木)午後6時より大学会館において岡源郎学長の退任記念パーティーが開催された。



平成12年度 大学院薬学研究科博士前期課程(修士課程)入学試験結果

(推薦入試)

募集人員 6名
出願期間 平成11年6月7日(月)～6月25日(金)
面接試験 7月1日(木)
合格発表 7月9日(金)
志願者 8名〔男子1名、女子7名〕
受験者 8名〔男子1名、女子7名〕
合格者 6名〔女子6名〕

(一般入試1次)

募集人員 24名
出願期間 平成11年7月23日(金)～8月5日(木)
学力試験 8月20日(金)〔外国語科目(英語), 専門科目〕
合格発表 8月27日(金)
志願者 46名〔男子33名, 女子13名(学外1)〕
受験者 46名〔男子33名, 女子13名(学外1)〕
合格者 37名〔男子28名, 女子9名〕

(一般入試2次)

募集人員 若干名
出願期間 平成11年10月7日(木)～10月13日(水)
学力試験 10月20日(水)〔外国語科目(英語), 専門科目〕
合格発表 10月25日(月)
志願者 12名〔男子7名(学外1), 女子5名〕
受験者 12名〔男子7名(学外1), 女子5名〕
合格者 10名〔男子5名, 女子5名〕

図書館だより

◆ 新着図書について

今年は辞書や参考図書類を充実させています。その一部ですが、下記のシリーズ図書を紹介させていただきます。新着図書は毎月図書館の掲示板に案内していますので、ご覧ください。

なお、リクエスト図書がありましたら図書館へお願いします。

○図解 生物科学講座(全10巻)

免疫学・内分泌学・発生生物学・行動生物学・分子生物学・現代生物学・細胞生物学の7巻まで入荷しました。各テーマごとに本文と図を見開きに配置しており、一目で理解できるよう構成されています。

○The CIBA Collection of Medical Illustrations (全13巻日本語版)

ネッターの図譜として長年親しまれている解剖学の名著。ネッター博士の手による優れた図解と充分に意を尽くした内容によって国内外を問わず名声を博しています。

神経・生殖器・消化器・内分泌・心臓・腎臓・呼吸器・筋骨格の8編13巻で構成されています。

○図説病態内科講座(全19巻)

「病態からみる内科学」を基本コンセプトに、疾患の背景にある病態生理を細胞レベル・分子レベルで解析し、その結果を分かり易く図説というかたちで説明しています。内科の主な疾患を各系統ごとに網羅し、症状・症候編を加えて構成されています。循環器、消化器、腎、泌尿器、肝・胆・膵、呼吸器、神経、内分泌、代謝、血液、アレルギー・膠原病、感染症、症状・症候の11編19巻。

学生課だより

◆ 学生証の更新について

青色の学生証（平成10年及び平成8年以前の入学）の有効期限は、平成12年3月31日までとなっています。このため新年度に向けて学生証更新の手続きが必要になります。更新時期・手続きは、学生部の掲示板で案内しますので、見落とさないようにしてください。

◆ 自動車・単車（原付を含む）通学の禁止について

本学では、通学途上の事故防止、近隣住民への騒

音や路上駐車による迷惑防止、構内の交通安全を確保し学園環境を保全するため自動車・単車による入構を原則として禁止しています。

しかしながら、近隣の路上に迷惑駐車する学生が、後を絶ちません。利便性のためこれぐらいはという安易な駐車が、住民には大きな迷惑となっています。自分自身の安全のためにも、近隣住民への迷惑防止のためにも、学内ルールを守り、公共交通機関などを利用して通学するようにしてください。

奨学生状況

平成11年11月1日現在

1. 日本育英会

区分	1年次	2年次	3年次	4年次	M1	M2	D1	D2	D3	合計
1種	24	28	17	24	7	8	2	0	0	110
2種	—	12	18	24	—	1	—	—	—	55
きぼう21	47	14	10	3	3	4	—	—	—	81
計	71	54	45	51	10	13	2	0	0	246

区 分	1年次	2年次	3年次	4年次	大学院	計	給・貸
岡山県育英会 47,000円	0	2	1	0	—	3	貸
交通遣児育英会 50,000円	1	0	0	0	—	1	貸
岐阜市 39,000円	1	0	0	0	—	1	貸
鯖江市 28,000円	0	1	0	0	—	1	貸
島根県育英会 52,000円	0	1	0	0	—	1	貸
東大阪市 17,000円	0	0	1	1	—	2	貸
あしなが育英会 40,000円	0	1	0	0	—	1	貸
(財)大阪府育英会 29,000円	0	0	2	4	—	6	貸
(財)奥村奨学会 30,000円	0	1	0	0	—	1	給
(財)小野奨学会 30,000円	1	2	1	1	—	5	給
(財)佐藤奨学会 19,500円	0	1	0	0	—	1	給
(財)大東育英会 25,000円	0	1	1	0	—	2	給
(財)朝鮮奨学会 25,000円	0	1	0	0	—	1	給
(財)南都育英会 50,000円	0	1	0	0	—	1	(貸)一部給
育友会奨学会 40,000円	1	1	2	0	0	4	貸
合計	4	13	8	6	0	31	

「関西薬連・全薬大会」結果（平成11年度）

■ 関西薬連	団体	個人	
剣道部	男子	6位	
	女子	3位 女子個人戦 3位・中居④	
硬式庭球部	男子	3位	
	女子	3位	
硬式野球部		3位	
サッカー部		3位	
柔道部	男子	1位 男子有段 1位・神農③ 男子無段 3位・佐々木② 女子個人戦 3位・井上③	
	ソフトテニス部	男子 3位 女子 1位	
卓球部	男子	1位 男子シングルス 2位・中田② 3位・浦田② 男子ダブルス 1位・中田②・颯原② 3位・上田②・浦田②	
	女子	2位 女子シングルス 3位・佐々木① 女子ダブルス 1位・佐々木①・村岡①	
	バスケットボール部	男子 1位 女子 1位	
	バドミントン部	男子 4位 男子ダブルス 3位・青柳③・福田② 女子 6位 女子ダブルス 3位・氏家②・村上①	
バレーボール部	男子	6位	
	女子	4位	
陸上競技部	総合	3位	
	男子	トラック	110m H 2位・木下③ 3位・桜井①
		フィールド	走り高跳び 1位・木下③ 砲丸投げ 3位・竹本②
		女子	トラック
	フィールド	走り幅跳び	2位・松井②/砲丸投げ 3位・谷本③
		走り高跳び	1位・西田③ 2位・尹② 3位・松井②
		やり投げ	1位・谷本③
	■ 全薬		
ソフトテニス部	男子	1位	
	女子	5位	
卓球部	男子	4位 男子ダブルス 3位・上田②・浦田②	
	女子	1位 女子ダブルス 1位・平上④・堀井④ 3位・佐々木①・村岡①	
バスケットボール部	女子	2位	

注) ○内は学年, Hはハードル

トウワタ *Asclepias curassavica* L. (ガガイモ科)

和名は「唐綿」で、唐（中国）の綿の意味。「唐」は中国だけでなく、多くの外国から渡来した植物にも付けられた。「綿」はこの植物の種子に冠毛があり、ワタ（アオイ科）を連想したものである。

熱帯アメリカ原産のガガイモ科ガガイモ属の植物で、わが国には江戸時代の末期の1842年に渡来した。地下に横に長い塊茎があり、熱帯地方では半低木状の多年草である。温帯地方では宿根草で、夏には草丈が1mほどになるが、切り花用には春に種子を蒔き、1年草として栽培される。春から秋にかけて、葉のつけねから花柄を延ばし、先端に5～10花をつける。薬用植物園では晩秋まで、次々に美しい花を咲かせる。花冠は2重になっており、外側の5枚の花冠は反り返り、成熟すると濃橙赤色になる。内側の黄色の副花冠は先端部が5裂している。ガガイモ属植物の花はチョウを連想させ、仲間の植物にはbutterfly weedと呼ばれるものもある。

この植物は葉や茎に傷を付けると、乳白色の汁を分泌するので、milk weedとも呼ばれる。毒性の強い強心配糖体を含むが、オオカバマダラなどマダラチョウ科の幼虫の食草である。マダラチョウには毒性を示さないが、マダラチョウや幼虫を食べたカケスは激しく嘔吐する。その後、そのカケスはオオカバマダラやそれに似たチョウや幼虫を食べない。この現象は昆虫の一種の擬態とされている。一方、晩秋に放牧中の乳牛がトウワタやオオトウワタ *A. syriaca* L. など同属植物を食べ、ミルクが毒化された。それとは知らず、ミルクを飲み体調を崩し、さらに療養のためにミルクを飲んで、中毒死に至った。アメリカ開拓期に起きたミルク病である。リンカーンの伝記に見られる実母の死など、不幸な出来事であった。

トウワターオオカバマダラーカケス、トウワター乳牛一ヒト（ミルク病）の關係に、この強心性成分が介在した。化学生態と呼ばれる現象である。ジギタリス、ケジギタリス、ストロファンツス、カイソウなどの強心性成分は薬として利用されているが、トウワタの成分は薬にはならなかった。しか



し、関連植物には強壯効果が期待された種類があり、ガガイモ科 (Asclepiadaceae) やガガイモ属 (Asclepias) の学名は、リンネがギリシャの医師 Asclepius に因んでつけた。これらの植物にかけられた薬用植物学的な大きな期待が伺われる。

オオカバマダラはメキシコの山岳地帯でトウワタやオオトウワタに卵を生みつける。春に一斉に孵化し、幼虫になる。トウワタを食べて成長した幼虫はさなぎになり、脱皮してチョウが大発生する。チョウは食草を求めて北上し、数回、成虫一卵一幼虫一さなぎ一成虫のライフサイクルを繰り返しながら、カナダまで旅をする。カナダで成虫になったチョウは、吹き始める北風に乗って、一気にメキシコに立ち返る。トウワタなどの食草がその大旅行を支えている。

途中に開発が進みトウワタなどがない地域が生じ、チョウのこの旅は不可能になった。それを知ったアメリカの小学生達がトウワタやオオトウワタを植え、この旅を助けている。小学生達はチョウに情報の伝達を託し、地域を超えて交流がなされている。オオカバマダラートウワタ、オオトウワターアメリカの小学生達一は壮大な生態系を形成している。

花の少ない晩秋の薬用植物園を飾ってくれているトウワタの花を眺めながら、大昔から続いた生態系と子供達を巻き込んで生まれた新しい生態系のことを思った。

(薬用植物園長 草野源次郎)

薬

発行

大阪薬科大学広報委員会

〒569-1094 大阪府高槻市奈佐原4-20-1

TEL (0726) 90-1000 (代表)

FAX (0726) 90-1005

URL : <http://www.oups.ac.jp>